

配布先: 京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、  
文部科学記者会

## NEWS RELEASE



2021. 6. 1 <計3枚>

報道機関 各位

立命館大学広報課

### オープン・イノベーションを通じた、大学の知を社会還元 大学発ベンチャー、学生起業家を輩出する“起業・事業化推進室”を設置 2025年に、企業の価値・評価総額 300億円以上を目指す

立命館大学は、オープン・イノベーションを通じた起業・事業化をワンストップで推進する組織「起業・事業化推進室」を、2021年6月1日に設置しました。

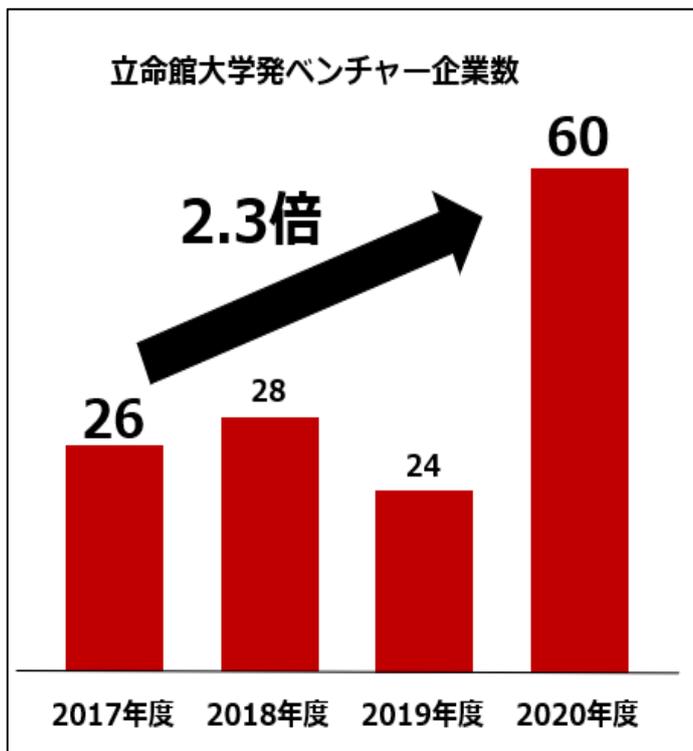
#### 本件のポイント

- 立命館学園における起業・事業化を推進するための専門機関として、総合的な役割を構築
- 研究シーズ型ベンチャー創出と一貫教育型アントレプレナーシッププログラムを相乗的に実施
- 教員・大学院生・卒業生に対する研究シーズ型ベンチャー創出支援プログラム「BRITZ」を始動
- 2025年には、起業・事業化推進室に関連する企業の価値・評価総額 300億円以上を目指す

起業・事業化推進室は、立命館学園（立命館大学、立命館アジア太平洋大学、各附属校）における起業・事業化を推進するための専門機関としての役割を担います。

研究シーズ型を中心とする立命館大学発のベンチャー企業数は2017年度と2020年度を比較すると、2.3倍と大きく躍進しています（※）。また、2019年度には、ビジネスを通じて社会課題解決を目指す人材を育成するプラットフォーム（RIMIX）を立ち上げています。

それぞれ実施していた研究シーズの事業化と、一貫教育型アントレプレナーシッププログラムを、社会とのつながりの中で総合的に捉え、立命館学園が有する2つの価値「一知と人材」の社会還元を、さらに推進してまいります。



（※）経済産業省「令和2年度大学発ベンチャー実態等調査」をもとに作成

【 ご取材に関するお問い合わせ先 】

立命館大学広報課 名和 TEL 075-813-8300

**Futurize.**

きみの意志が、未来。

## 【起業・事業化推進室の概要】

名 称: 起業・事業化推進室

開 設: 2021年6月1日

開設場所: 立命館朱雀キャンパスを拠点とし、各キャンパスにラボを設置予定

支援対象者: 立命館学園の学生・生徒・児童・教職員・卒業生、これらの構成員とともに事業を推進するパートナー(企業、自治体等)

## 【起業・事業化推進室の主な取り組み】

- ・起業・事業化支援プログラムの運営(研究・技術シーズの開発、起業家育成プログラムの実施)
- ・学内外のニーズ・シーズのマッチング・入口支援(AI/ICTの活用)
- ・起業・事業化の分野・テーマ等の戦略的選定と募集
- ・社会課題に関する事業への投資(ファンドの運用管理)
- ・起業・事業化拠点(ラボ等)の運営

## 【起業・事業化推進室の特徴】

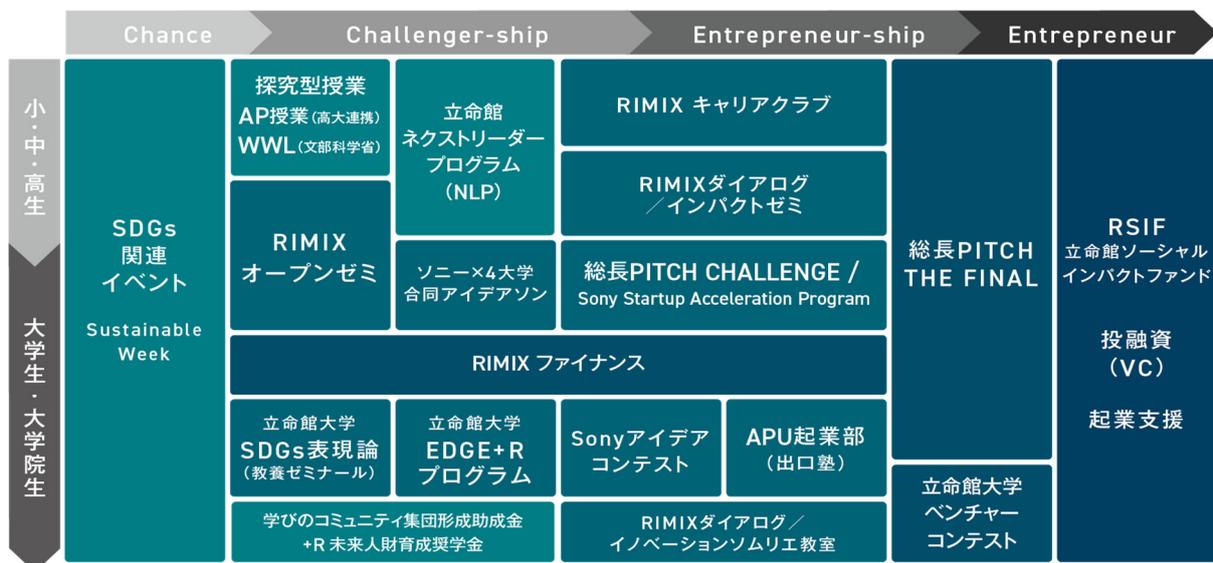
起業・事業化推進室は、立命館大学に関わる多様な人材が、社会課題の解決を多様なレベルで実装し、事業化を支援する組織です。「起業するなら立命館」という社会的な評価の確立を目指し、組織文化としての「起業文化」を創生していきます。

具体的には、アントレプレナーシップ教育型の起業・事業化支援として2019年から実施している「RIMIX」および、研究シーズからの起業・事業化の創出を目指す「BRITZ」を軸に、世界と日本の社会課題解決に向けたワンストップサービスを展開します。2025年までに、起業・事業化支援に関わった企業の価値・評価総額300億円以上、起業・事業化支援100件達成を目指します。

## ■一貫教育型アントレプレナープログラムをもとにした社会課題に関する起業・事業化支援「RIMIX」

RIMIXは、社会課題に貢献する人材・マインド養成から起業支援までの取り組みをひとつのプラットフォームとして「見える化」し、企業との連携のもと、学生・生徒・児童への幅広い支援を行うべく、2019年9月にスタートしました。SDGsに代表される人類共通の課題に対する学生・生徒・児童の問題意識、そこから生まれるチャレンジ精神を起点に、挑戦から起業までをシームレスに支援し、初等・中等教育段階から社会課題を積極的に解決する人材(社会起業家)の養成を目指すものです。

### RIMIXの全体像



## ■研究シーズ型ベンチャー創出支援プログラム「BRITZ(ブリッツ)」

「BRITZ」は、立命館大学の教員・大学院生・卒業生を対象に研究シーズから起業・事業化の創出を目指すプログラムです。4つの支援フェーズ(発掘フェーズ、価値創造フェーズ、事業展開フェーズ、会社設立・事業開始)に分け、外部協力機関との連携のもと、各シーズに応じた支援を実施します。

### 【設置の背景】

#### (1) 社会情勢

近年、グローバルなスタンダードやプラットフォームによる大きな市場が注目されるに伴い、イノベーションとしてスモールビジネスを始め、育てるという段階が減少している点が課題となっています。一部の国・地域では、スタートアップ企業がそれを補完しており、多くの支援が行われています。日本でも中央省庁(内閣府、経済産業省、文部科学省等)や地方自治体が関与しながらスタートアップ・エコシステムの拠点形成や支援が進められつつあります。さらに、SDGsの浸透やESD投資の拡大に見られるように、経済活動は社会的な持続性を無視できないものになってきており、社会課題解決へのイノベーションが世界的に求められ、加速しています。

#### (2) これまでの立命館の歩みとR2030 チャレンジ・デザインの具体化

立命館大学は、研究高度化に向けて人文社会科学系と自然科学系などの幅広い研究領域を活かした文理横断型研究や産学連携の推進、スタートアップ企業の創出に取り組んできました。また、人材育成の観点でも、学生への成長支援型奨学金制度、文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業、ベンチャーコンテストの開催など、社会課題解決に向けた学生の主体的な取り組みを支援しています。

立命館大学は、2030年に向けた中長期計画「R2030 立命館大学チャレンジ・デザイン」において、社会共生価値の創造、そのために次世代研究大学の実現を目指しています。特に研究高度化に向けた積極的なプロジェクトの推進を進め、基礎研究から応用研究、そして社会実装までのオープン・イノベーションを推進する体制の強化・仕組みを整えていきます。